

そらこめ通信

No.90 2018年1月号

新年明けましておめでとうございます。昨年は大変お世話になり有難うございました。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

このたびは弊社の米をお買い上げ頂き誠にありがとうございます。日頃よりご愛顧頂いております皆様にはこの場をお借りして厚くお礼を申し上げます。

さて、2018年が無事に明けました。年末年始に限れば、沼田町など北空知管内ではさほど雪も降らず、至って穏やかな正月だったかと思えます。毎年大晦日の夜にNHKで放送されている「ゆく年くる年」ですが、今年は北海道内では唯一「沼田町」から中継が入っておりました。札幌の北海道神宮の「御神火」が沼田神社に到着したようすや町民の参拝風景、五ヶ山における火文字など年初から沼田町にとってはありがたい話題でした。北海道神宮の御神火を沼田神社まで運ぶ取り組みは2001年の年末に始まったものです。札幌市から沼田町までのおよそ108キロを、「御神火」を守りながら町民有志数名で歩き通すもので、今回で17回目。17年のうちには吹雪の日もあったかと思えますが、こうして身を削りながら沼田町を盛り上げてくれることに感謝しかありません。

冬の作業といえば除雪です。雪から常設ハウスを守るための除雪や建物周りの除雪など。何せ、沼田町は北海道内でも有数の豪雪地帯ですから、その労力たるや半端なものではありません。春になれば消えるものに対して、わざわざコストを掛けなければならない事に少し複雑な思いはありますが、考えてみればこの雪解け水があるから豊穡の秋があるわけで、これはこれで良しとしなければなりません。今年から戸別所得補償が廃止になります。これは農家にとっては一大変革期です。新たな年はどんな年になるのか。怖いようでもあり楽しみでもあります。



トラクター(左)と小型除雪機(中)による育苗ハウスの除雪(12月19日)



除雪作業中の育苗ハウス(12月19日)



ハウスとハウスの間を最初に除雪します(12月20日)



ハウスの内側も除雪機で除雪(12月20日)



小型機械で除雪し、残った部分は人力で除雪します(12月20日)



除雪中に撮影?手袋だけ残ってますが...



倉庫に格納されたトラクター(12月26日)



倉庫のようす(12月26日)



納屋から見た外の風景(12月26日)



倉庫におかれた田植え機(12月26日)



倉庫内の乾燥機と草刈機(12月26日)



納屋から見た外の風景(12月26日)



本社中央玄関(1月6日)



精米プラントのようす(1月6日)



本社の神棚です(1月6日)

北海道や道の農業団体などでつくる北海道農業再生協議会は、2018年産の主食米生産目標について前年より約5,000トン多い54万622トンに決定したとの報道がありました。今年から戸別所得補償が廃止になると同時に、生産調整もなくなります。最近の北海道米の人気上昇もあり、北海道農業再生協議会では攻めに転じる絶好の機会ととらえたのでしょう。前文にも書きましたが、今年は農家にとって大きな変革期です。期待外れにならぬよう頑張りたいと思います。

インターネットで美味しいお米!

(株)空知こめ工房 ホームページ
<http://www.sorachi-kome.jp/>
facebookによるブログ「生産日誌」更新中